学校訓 「凡事徹底・脚下照顧」

挨拶は 心に届ける 贈り物

神崎中だより

令和６年12月号

神崎中の紅葉（12月）

【学校教育目標】「知・徳・体」の調和がとれた未知の状況に対応できる生徒の育成

検索 神崎中

福祉教育【疑似体験】（２年）

詳細↑

１２月１２日（木）２年生が福祉教育の一環として、車椅子に乗ったり、目や耳の不自由な方、高齢者の疑似体験をしました。生徒たちは意欲的に取り組み、貴重な体験をすることができました。（視覚障害ゴーグル、イヤーマフ、重り等を装着）

スロープでの車椅子体験

パートナーの支援が大事です。

見る、歩くことにかなり負担があります。

食育教室（１年）

詳細↑

１年生を対象に、神崎町給食センターの箕輪栄養教諭（管理栄養士）と木村養護教諭による食育の授業を開催しました。生徒たちは、食に関する大事な話を聞いて、改めて食の大切さについて考える良い機会となりました。

栄養教諭と養護教諭による授業です。個々の食事内容について考えます。

赤い羽根共同募金

詳細↑

１２月１６日（月）生徒会本部役員の呼び掛けで集まった「赤い羽根共同募金」を、神崎町社会福祉協議会の池上会長にお渡ししました。

共同募金は都道府県単位で行われ、子供たち、高齢者、障がい者などを支援する様々な福祉活動や災害時支援に役立てられます。

令和６年度（第78回）共同募金運動

1　実施期間　10月1日（火）～3月31日（月）

2　メインテーマ　じぶんの町を良くするしくみ

3　実施主体　各都道府県共同募金会

4　全国共通助成テーマ

「つながりをたやさない社会づくり」

～あなたは一人じゃない～

募金額 16,414 円

生徒会長から池上会長へ募金が渡されました。

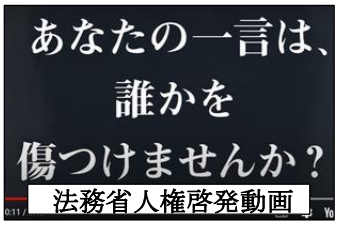
生徒人権集会　　一人一人の大切な人権を意識することが大事！

詳細↑

１２月６日（金）生徒会主催による生徒人権集会が開催されました。始めに、宇﨑さん（２年）の人権作文を聞き、人権意識を高める手立てとしました。

講演会では、人権擁護委員の石毛先生から「いじめについて」の講話を聞き、いじめの構造や対処方法を考えることができました。

法務省人権啓発キャッチコピー



法務省人権啓発動画

『人権週間』　1948 年 12 月 10 日の国際連合総会において**世界人権宣言**が採択された**世界人権デー**を記念して 12 月 4 日～10 日を人権週間と定めました。いじめや児童虐待、インターネット上の人権侵害、感染症や障害等を理由とする偏見や差別など、様々な人権問題が依然として存在しています。これらの問題解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、**「誰か」の問題ではなく自分の問題として捉え、互いの人権を尊重し合う**ことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。（法務省ホームページ）

【講師】人権擁護委員の石毛先生

いじめに関するビデオ視聴及び感想発表

人権作文発表

【人権作文の紹介】

神崎中学校では、２・３年生が夏休みの選択課題として人権作文を書き、代表作品を全国中学生人権作文コンテスト香取協議会大会に出品しています。今後の人生において一人一人の大切な人権を意識していくことは、とても大事なことです。

『大きな壁』　　宇﨑　真之助（２年）

僕はMK-V（マーク・ファイブ）を初めて見たとき、「腕を切ろうかな」と思いました。僕が初めてMK-Vを知ったのは、まだ幼いときでした。MK-Vはモーターが組み込まれた、レゴブロックで作られた義手のことです。

デイヴィット・アギュイラーさんが初めてレゴブロックで義手を作ったのは、わずか９歳のころでした。18 歳のときには完全に義手として機能するモデルができ、赤いボディからアイアンマンのインスピレーションを受けて、MK-Ⅰ（マーク・ワン）と名付けました。

デイヴィットさんは、ポーランド症候群という、胸筋や腕、肩や手の筋肉の発育に異常を起こす先天性の病気のため、右腕が発育不全で生まれました。そのことから、幼少時代に心無い言葉を投げかけられたことも多かったそうです。デイヴィットさんは、その想像力を使い、自分の世界へ没頭しました。そうすることで、外の心無い言葉から自分の身を守っていたのです。ゲームやコミックに夢中になり、特にレゴブロックでは、今にも飛び立ちそうな飛行機を作れるほどになりました。デイヴィットさんは、「レゴは僕にとって初めてのおもちゃだった。これさえあれば、何でも自分で作れるんだという気持ちになったのを覚えている」と言っています。そんなデイヴィットさんを支えているのは彼の父親です。デイヴィットさんの父親は彼を特別扱いすることなく、当たり前のように一緒に遊んでいました。デイヴィットさんは、その想像力や父の支えもあり、『世界初のレゴ製の実用可能な義手』『世界初の足で操作するレゴ義手』『世界初のタッチペン付きのレゴ義手』という三つのギネス世界記録を所持しています。

2016年７月、神奈川県の知的障害者施設で、19人が死亡、37人が重軽傷を負う殺傷事件がありました。その事件の犯人である元施設職員の男は、何年経っても「重度障害者は安楽死させるべき」という思想を持っており、自分は殺人鬼ではなく、社会を重度障害者から解放した『救世主』であると主張しています。僕はこの記事を読んでから、心がモヤモヤしています。本当は「今すぐ死にたい」と思っている人がいるのか、僕が障害者になったらモヤモヤが収まるのかとさえ考えました。

しかし、僕はあることを思い出し、心の中のモヤモヤがほとんどなくなりました。それがデイヴィットさんと、その父親です。僕は、デイヴィットさんの父親のようになりたいです。特別扱いすることなく、当たり前のように接する人に。この考えは、一つ上の先輩が書いた、障害者目線の人権作文を読んで、更に深まっていきました。

「障害」とは、左手がないなどの身体障害、ＡＤＨＤなどの発達障害、うつ病などの精神障害、知的障害等のことを言います。そんな障害を持っている人、「障害者」はかわいそうなのでしょうか。僕は今まで、障害者には優しくするべきと思っていました。ですが、デイヴィットさんは障害のことを「異なる能力」と表現しています。先輩は「病気や障害を気にせず接してくれる友達が、大きな支えになっている」と言っています。僕は驚きました。僕は障害をデメリットだと思っていましたが、障害者は生活の不自由で障害を言い訳にしません。障害者を、かわいそうだと思うのは違います。障害者は何度も壁にぶつかっている人ではなく、理不尽な壁を何度も乗り越えてきた勇敢な行動家たちです。デイヴィットさんは、障害のことを「異なる能力」と表現しており、障害を良い方に考えています。それで三つのギネス記録をとったデイヴィットさん。僕も彼を見習い、何かできなくても決してあきらめない人になりたいです。

神奈川県の事件とデイヴィットさんのこと、先輩のことを、一括りにしてしまうのは無理があるかもしれません。ですが、僕がデイヴィットさんの作ったＭＫ−Ｖの格好良さに腕を切りたいと思ったほどに憧れ、先輩の作文を読んで先輩の力強さを知ったのは事実です。

神崎町議会傍聴（３年）

詳細↑

１２月５日（木）神崎町議会を３年生が傍聴しました。生徒たちにとって初めて実際に町議会を見た経験は、主権者教育の一環として社会に責任を持った大人へと成長するための手立てになると期待しています。

初めての町議会傍聴、皆さん集中して聞いています。

教育関係の質問も多くありました。

第2回新入生体験入学

詳細↑

１２月１７日（火）第２回新入生体験入学が行われ、社会科の授業を体験しました。世界の国々について、意欲的に学習することができました。授業後の「神崎中Ｑ＆Ａ」では、中学校入学に際して不安に思っていることや疑問に思っていることについて、教頭先生が回答しました。最後は部活動見学、活動の様子を興味深く見学しました。

小学生に合わせた授業を展開しました。意欲的に参加しています。

部活動見学の様子です。

クリスマスコンサート2024

詳細↑

１２月２１日（土）クリスマスコンサート 2024 が神崎ふれあいプラザで開催され、神崎中学校吹奏楽部は、佐原高等学校吹奏楽部、コールくすのきさんと合同出演し、とても貴重な経験をすることができました。

高校生から演奏・振り付け等、多くを学びました。

合同ステージ「赤鼻のトナカイ」の演奏

２学期終業式　～２学期振り返り＆３学期抱負～

詳細↑

１２月２３日（月）２学期終業式が行われました。各学年代表生徒から２学期の振り返りと３学期に向けての抱負が発表されました。皆さん、自分の思いをしっかりと伝えることができました。

１学年代表

僕がこの2学期で頑張ったことは、二つあります。一つ目は勉強です。僕は夏休みの終わりごろ膝の手術をして、長い間運動ができなくなりました。そのため、運動ができるようになるまでは勉強に専念することにしました。そのおかげでテストの点数も少し上がりました。これからは運動ができるようになっても、点数を落とさないように努力しようと思っています。二つ目は行事です。体育祭では、膝の手術で競技に参加できなかったので、実行委員として練習の呼び掛けをしたり、応援で誰より声を出して応援したりしました。文化祭の合唱コンクールでは、指揮者をやりました。始めはやったことがなかったので不安だったけれど、やっているうちに慣れてきて、本番はとても緊張したけれど最後まで指揮をやりきることができました。これらの経験を通して学んだことは、運動ができないことの大変さ、やったことのないことに挑戦することの大切さです。3学期からは、部活動に復帰したときに仲間に追いつけるように努力することと、これからもいろいろなことにどんどん挑戦していくことを頑張っていきたいです。

２学年代表

2学期を振り返ると、体育祭に文化祭、合唱コンクールなど、たくさんの行事があったなと思います。その中でも印象深く残っているのは体育祭です。体育祭で一番心に残ったことは応援団の活動です。小学校とは違い決められたものが少ないので、舞を決め、自分たちで作り上げていく感じがして、新鮮味がありました。みんなに教えるとき、説明は3年生がしてくれたので、私は全力で声を出したり、動いたりしました。準備の段階では、大丈夫かなと不安でしたが、本番では満足のいく応援ができてよかったです。応援優勝は取れませんでしたが、とてもよい経験になりました。今年は言葉遣いが悪く、注意されることが多々あったので、言葉遣いにはより一層気を付けていきたいです。

３学年代表

私が2学期頑張ったことは勉強です。私は、得意教科と苦手教科の差が大きく大変な時期がありました。ですが、苦手な教科を克服するために、テスト前はワークや「整理と対策」を何回も取り組んだり、分からない問題は先生に聞いたりして、少しずつ克服できるようになりました。また、家での勉強時間も増えて、勉強に対する意識も変わりました。定期テストも実力テストも安定して点数を取ることが増えてきたので、冬休みは過去問などの実践問題でも安定した点数が取れるように頑張りたいです。入試までの限られた時間を大事にし、志望校合格を目指します。

【校長先生の話から抜粋】　「自分を好きになろう！」

日本人は、欧米人等に比べると自己肯定感が低いと言われています。自分をあまり好きでない人も多くいます。他人と比較するからの感情でしょうか。日本人には、おもてなしの心、謙虚さ、やさしさ、勤勉さ、きめ細かさ等、すばらしい国民性がたくさんあります。良い比較は人間や組織を成長させますが、マイナス思考の比較は成長を止めてしまいます。自分を好きになれると、人にも更に優しくできると言われますので、今の自分を受け入れながら、自分を成長させていくことが大事なことでしょう。